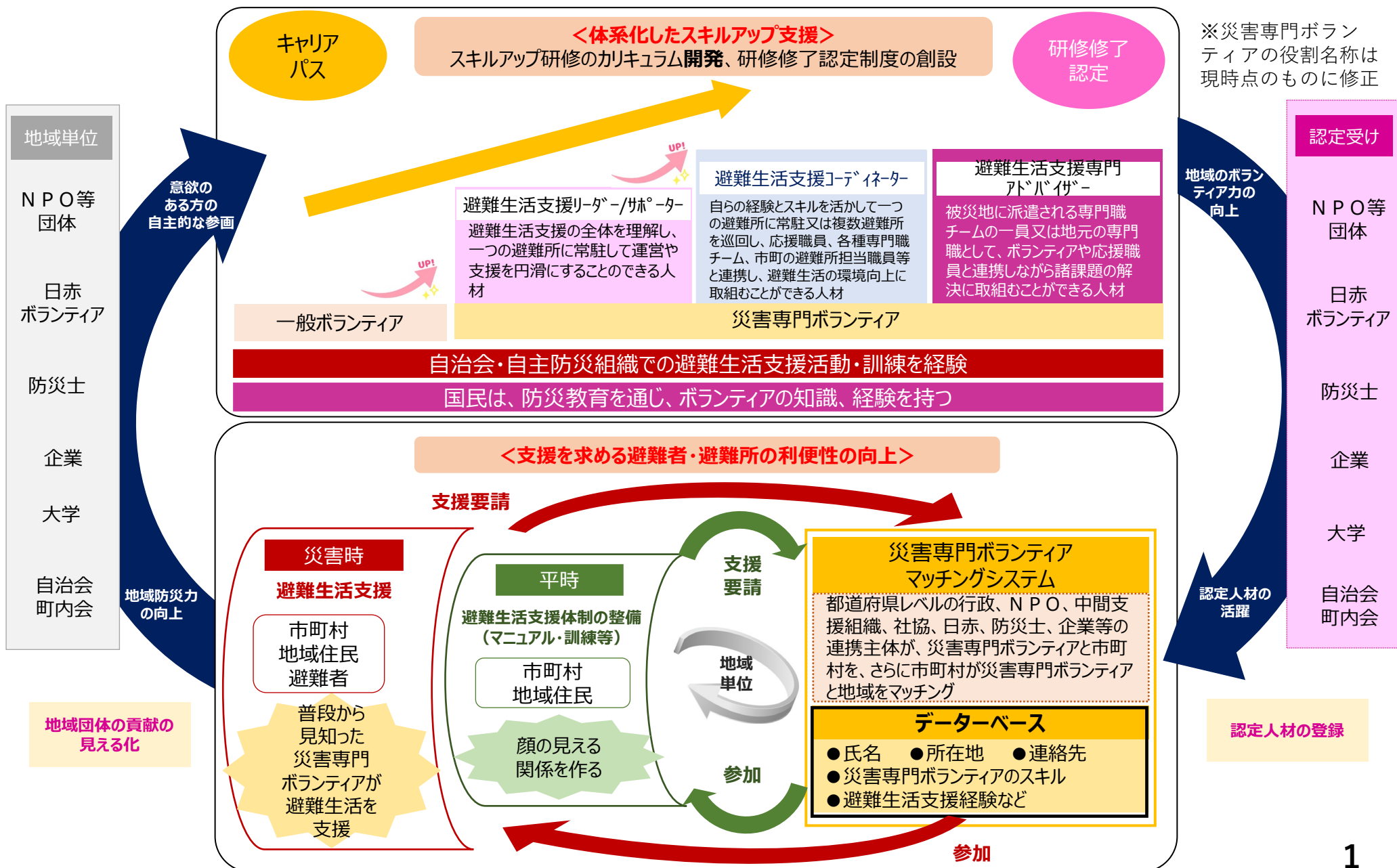




避難生活支援コーディネーターに関する資料



	リーダー／サポーター	コーディネーター	専門アドバイザー
災害ボランティア 人材のモデル	一つの避難所において、応援職員、住民代表等と連携し、避難生活の環境向上に率先して取り組むことができる人材	自らの経験とスキルを活かして、一つの避難所に常駐又は複数避難所を巡回し、応援職員、各種専門職チーム、市町の避難所担当職員等と連携し、避難生活の環境向上に取り組むことができる人材	被災地に派遣される専門職チームの一員又は地元の専門職として、ボランティアや応援職員と連携しながら、諸課題の解決に取り組むことができる人材
求められる 人材像	- 避難所運営等について、改善点を自ら見出し、実践していける存在 - 性別等の多様性の観点を考慮し、一つの避難所に複数いることが望ましい ※コーディネーター、専門アドバイザーと連携した活動を想定	- 日常的に、防災・被災地支援のみならず、男女共同参画、福祉など専門的なスキルを活かした活動をしていることが望ましい - 運営に関わる担い手、専門職と連携し、避難生活に必要な支援プログラムをつくることができる - 被災地支援の経験を積みながら、自らのスキル向上に努めることが期待される	- 一定期間継続的に避難生活に携わるため、安定して人材を拠出できる組織に所属 - 専門的支援を理解して、課題解決のために取り組める存在

コーディネーター

- 現在のLS講師および養成研修の受講者を想定した役割。運営に関わる担い手と連携した環境改善に率先して取り組む人材とする
- 避難所にこだわらず、在宅避難者支援なども含む避難生活支援全般に関わる（状況にあわせて、1つの避難所に特化する場合もあれば、複数の避難所を巡回する場合も想定）
- リーダー／サポーターからのスパイラルアップ、内閣府会議委員からの推薦によって選出する想定。また、リーダー／サポーター研修講師を担うほかスキルアップ研修の受講を想定**

専門アドバイザー

- 避難生活支援の環境改善のために、医療・保健・福祉等の専門的な知見を活かした支援・助言ができる人材を想定。
- リーダー／サポーター、コーディネーターそれぞれの役割を理解して、必要に応じて連携して活動を展開することを想定。
- 専門職などを対象に、特定の研修プログラムを提供し、受講した方に名称を付与する想定。**日赤救護班・DHEAT・DWAT等の登録者と、コーディネーターは平時からの情報交換等を通じて相互理解の醸成が図れることが望ましい

避難生活支援コーディネーターの人物像（案）

平時

- 日常的に、防災・被災地支援のみならず、男女共同参画、福祉など専門的なスキルを活かした活動に携わっている人物を想定
- 防災・被災者支援の隣接分野の職業に従事している
- 行政や自主防災組織、NPOや専門職等とのネットワークがあり、それらの担い手と連携・協働の実践経験を有している
- 被災地支援活動の経験を活かして、さらなる研鑽（知識・スキルの習得、ネットワーク強化など）の意欲がある人物が望ましい
- 全国域で、被災者支援に関連する関係者等とのネットワークを有していることが望ましい

災害時

- 避難生活支援コーディネーターとして、自らの経験やスキルを活かして、避難生活の環境向上のための環境改善、運営に関わる担い手と協働して取組むことができる人物を想定
- 災害発生後、1週間程度の単位で、継続した避難生活支援の活動が可能であること
- 自らの経験やスキル、強みを活かした被災者支援、避難生活支援の活動実績を有している
- 過去の災害において、被災者との直接的なやりとり、生の声を聞き、支援活動を行った経験を有していることが望ましい
- 自らの経験やスキルにこだわらず、現場の状況にあわせて、被災者支援に関わる多様な担い手との連携・協働を生み出すために、円滑なコミュニケーションを図る素養を有している

避難生活支援コーディネーターの育成の方向性

- これまでの検討会で「コーディネーターの人物像イメージ」はレベルが高いとの指摘があったことから、一つの避難所を対象に運営改善に取り組む「コーディネーター」と、複数の避難所を対象に関係機関との調整も含めて環境改善に取り組む「シニアコーディネーター」に区分することが望ましいのではないか

コーディネーター

リーダー・サポーター研修の講師、被災地OJT派遣、スキルアップ研修等の受講をクリアし、委員による認定を想定して、育成を進めることが望ましい

シニアコーディネーター

研修プログラムで育成するものではなく、避難所運営の実践経験を重ねることで認定されるものではないか



【現状・課題】

- これまで、令和3年7月豪雨(佐賀県内)、令和5年能登半島地震(石川県)、令和6年8月豪雨(山形県)で設置された避難所において、コーディネーター候補(アシスタント講師)を派遣して、避難所のアセスメント、運営支援等を行う
- 能登半島地震においては、現地で継続的に避難生活支援に従事するNPOがコーディネーター候補の受け入れを行う
- 既存の研修予算枠を活用して、派遣の旅費交通費、日当、受け入れの人件費等を支払う(受託事業者が、派遣調整、同行支援等も行う)

【見直しの方向性】

- 派遣期間は、移動を含めて1週間程度が望ましい
- 派遣にあたっては、複数名がチームとなって対応することが望ましい。経験豊富なNPO職員の同行、助言、フォローアップができる体制が望ましい
- 円滑な運営支援・改善につなげていくためには運営支援にあたる人材の身分を保証することが望ましい(内閣府から被災した自治体・関係機関への照会等)
- 今後発生した災害において避難所運営支援が必要である場合、状況に応じて、既存の研修予算枠を活用して、派遣等にかかる経費を負担するのが望ましい。また、受託事業者が今後も継続して、派遣調整、同行支援等を行うことが望ましい
- 内閣府から、派遣チームと被災自治体の職員、専門職能チーム等が避難所運営支援・環境整備について協議する機会を設けられるように働きかけ、具体的な改善、成果が挙げられるようにすることが望ましい

①避難所・避難生活における課題等の理解

- ・ 災害関連死を防ぐため、避難所・避難生活において陥りやすい課題の理解
- ・ 被災者一人ひとり、多様性の理解、具体的な配慮

②被災者との信頼関係づくり

- ・ 被災者の置かれている状況を理解するため、支援につなげるための信頼関係づくりのためのコミュニケーション力

③連携・協働を生み出す調整力

- ・ 具体的な改善や対応につなげるための企画・提案・調整・合意形成等の技術と経験
- ・ それぞれの支援者(被災者も含む)の力を発揮できるような協調性、エンパワーメント
- ・ それぞれ関係者の意見を引き出すファシリテーション、進捗や経過を共有するコミュニケーション

④自らの強み・特性の理解と実践力

- ・ 日常業務、これまでの経験で培われた専門性・個性などを自らが理解し、支援や調整などの実践に活かせる技術と経験
- ・ 日常的に専門性を活かした実践

⑤被災者支援に関する各種制度の理解

- ・ 災害救助法など避難所の環境改善に活用できる制度や被災者の生活再建に関する制度を理解し、わかりやすく説明できるスキル
- ・ 生活再建に関わる日常的な福祉サービスや制度の理解
- ・ 被災者支援に関わる行政、専門職等の特徴やしぐみの理解



①避難所・避難生活における課題の把握と整理

- ・ 避難生活の環境、避難所等で利用されている制度や支援の実態把握
- ・ 避難生活における課題の把握とその要因分析

②被災者一人ひとりの状況把握と個別対応

- ・ 被災者一人ひとりが置かれている状況の把握、困りごとの整理
- ・ 必要に応じた個別の声かけ、同行、つなぎなどの対応

③具体的な改善方策の検討

- ・ 環境改善や課題解消に向けて考えられる様々な対応策の検討
- ・ 対応策に関わる支援者の把握
- ・ 被災者のコミュニティ形成の支援

④改善方策の実現に向けた各種調整・実践

- ・ 対応策を実現するために行政、専門職、支援者、避難当事者等との各種調整、関係機関との協議、具体的な対応の実践

⑤平時からの人材育成

- ・ 避難生活支援リーダー/サポーター研修の講師や避難生活支援に関する研修・訓練等への参加を通じて、地域の人材育成

①避難所運営に関わる行政の役割

- ・ 被災自治体の体制と一般的な避難所支援策
- ・ 災害マネジメント 総括支援担当・対口支援等の外部支援 等

②各種専門職能チームとその役割

- ・ 日赤、DMAT、DWAT、DHEAT、保健師、DPAT、JDA-RAT等避難所運営に関係する職能チームの特徴、役割 等

③被災者支援に携わる民間支援団体とそれぞれの特徴

- ・ 被災者支援に関わるNPO・NGOとその活動、社会福祉協議会の果たす役割 等

④生活再建に関わる制度、被災者支援制度

- ・ 災害救助法、罹災証明書・被害認定、生活再建支援制度等の制度とその運用例、被災高齢者等把握事業、被災者見守り・相談支援等事業などよく活用される事業 等

⑤被災者支援にも関わる日常的な福祉等の制度

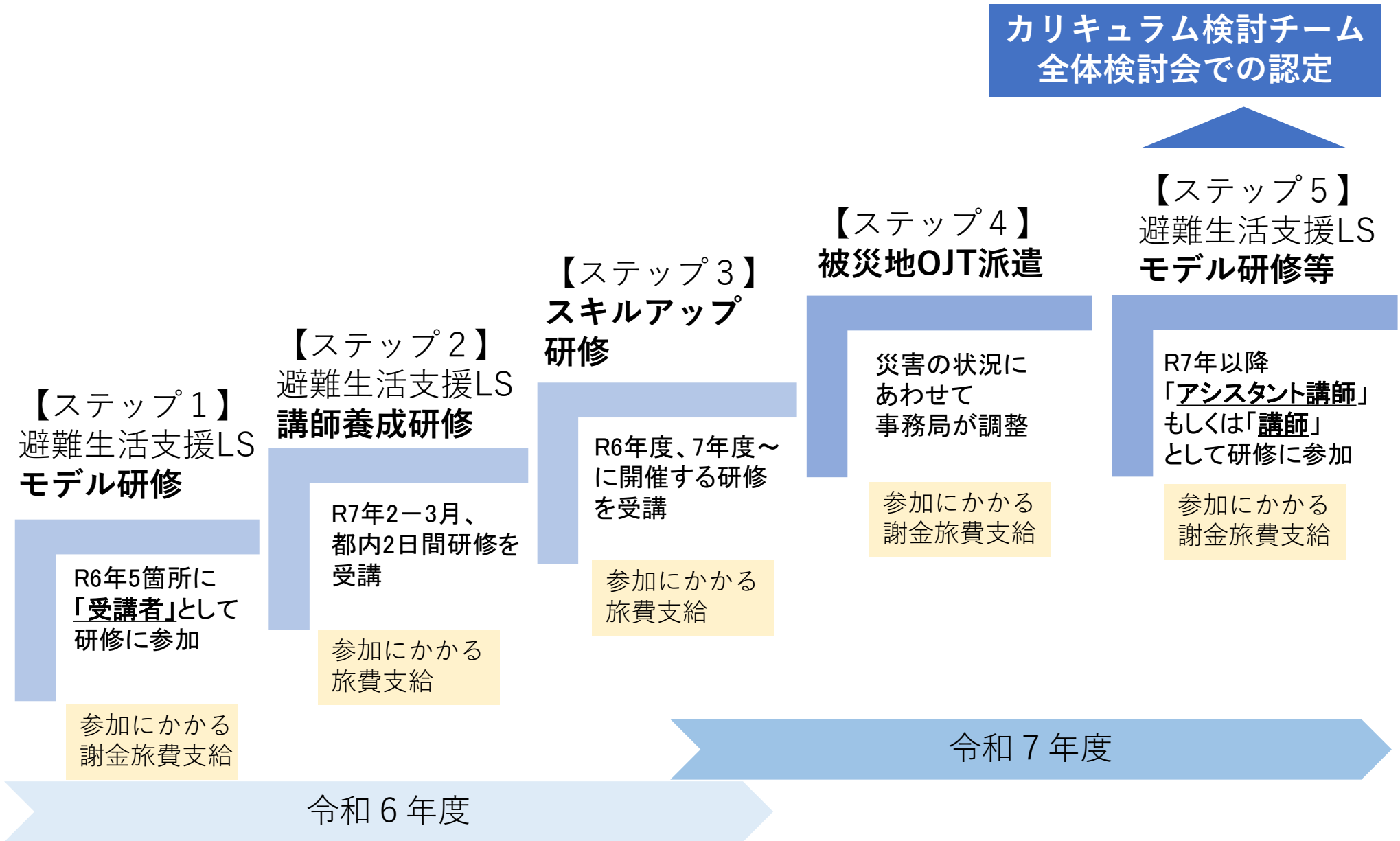
- ・ 生活支援コーディネーター、生活困窮者自立支援制度、重層的支援体制整備事業の制度とその運用例 等

⑥様々な話し合いの場づくり、ファシリテーション

- ・ 様々な関係者の会議、話し合いの場作りのポイントやファシリテーションスキル 等

⑦要配慮者支援の実情と支援

- ・ 高齢者・障害者・外国人・慢性疾患・女性・子ども・ジェンダー多様性等それぞれの置かれやすい状況と具体的な支援・対応事例 等



- ・ 日時: 令和7年3月6日(木)、7日(金)10:00~17:00
- ・ 会場: ビジョンセンター日本橋(三越前)別館701(東京都中央区日本橋室町1-6-3)

3月6日(木)＜リーダー／サポーター研修講師養成＞

- (1)開会・オリエンテーション
 - ・ 2日間プログラム紹介
 - ・ 自己紹介
- (2)リーダー／サポーター研修の解説
 - ・ 準備・調整の手順
 - ・ 令和7年度の展開イメージ
 - ・ 講師に求められる役割等
- (3)リーダー／サポーター研修ふりかえり
 - ①避難者の置かれる状況・心情の理解
 - ②避難所の環境改善
 - ③対人コミュニケーション
 - ④避難所運営の担い手との連携・協働
 - ・ 各講義、演習のポイント解説
 - ・ グループにわかれてふりかえり
 - ・ 質疑応答

3月7日(金)＜コーディネーター養成＞

- (1)コーディネーターに求められる役割・資質
- (2)避難所運営の基礎
 - ・ 避難所の機能・運営の基本的な知識
- (3)避難所運営に関わる行政の役割
 - ・ 庁内体制、外部からの支援
 - ・ 活用される制度

※避難所の現場
- (4)各種専門職能チームとその役割
 - ・ 日赤、DMAT、DWAT、DHEAT等の役割
 - ・ 医療福祉調整本部等の機能
- (5)避難所環境改善ケース検討
 - ・ よくある避難所における状況を付与し、具体的な対応策をグループで検討
 - ・ 発表、全体ディスカッション

※コーディネーター養成研修は、今後も継続して様々なカリキュラムを実施する想定

敬称略、順不同、都道府県名は活動拠点

1	浦野 愛	特定非営利活動法人レスキューストックヤード 常務理事	愛知県
2	辛嶋 友香里	一般社団法人ピースボート災害支援センター 現地コーディネーター	東京都
3	頼政 良太	被災地NGO協働センター代表/ 関西学院大学人間福祉学部助教	兵庫県
4	山中 弓子	親子支援・災害看護支援てとめっと／看護師	兵庫県
5	山根 一毅	大阪YMCA部長・ユース事業部責任者・グローバル事業グループ長	大阪府
6	鶴木 由美子	特定非営利活動法人 難民支援協会 定住支援部 チームリーダー	東京都
7	土居 正明	日本赤十字社事業局 救護・福祉部 参事	東京都
8	小柳 由佳	日本赤十字社長野県支部 事業推進課長	長野県
9	甘中 繁雄	NPO法人首都圏防災士連絡会 理事	千葉県
10	小山内 世喜子	男女共同参画地域みらいねっと代表理事	青森県
11	細谷 真紀子	山形県自主防災アドバイザー、図上訓練指導員	山形県
12	水野 直樹	特定非営利活動法人 ソナエトコ 理事長	熊本県
13	高智穂 さくら	特定非営利活動法人 ソナエトコ 理事	熊本県
14	佐藤 純	特定非営利活動法人 Hand Over Japan 代表理事	東京都
15	北村 育美	さすけなぶる研究会	宮城県

※アドバイザー：尾島俊之（浜松医科大学教授）、佐々木裕子（愛知県立大学看護学部准教授）

敬称略、順不同、都道府県名は活動地域

1	本田 綾子	一般社団法人 Wellbe Design	北海道
2	鈴木 伸明	群馬県社会福祉協議会災害福祉支援センター所長	群馬県
3	石倉 敦也	サニーズマーケット 管理者	群馬県
4	南川 基治	特別養護老人ホームやまつつじ 理学療法士	群馬県
5	加藤 鮎美	日本赤十字大学大学院／看護師	東京都
6	山脇 歩子	ピースボート災害支援センター	東京都
7	谷本 恵子	かながわ3.11ネットワーク専務理事	神奈川県
8	二村 純子	愛知医科大学看護学部公衆衛生看護学領域講師	愛知県
9	森本 佳奈	レスキューストックヤード／愛知県被災者支援センター	愛知県
10	栗山 基	岐阜市教育委員会／清流の国ぎふ防災減災センター／関防災の会	岐阜県
11	合田 茂広	ピースボート災害支援センター	岡山県
12	工藤 美佐	宇部市こども未来部こども政策課 こどもコーディネーター／看護師	山口県
13	澤上 幸子	NPO法人えひめ311 副代表理事兼事務局長	愛媛県
14	伊藤 りか	災害支援ふくおか広域ネットワーク事務局／一般社団法人萤火	福岡県
15	岡部 由紀夫	西九州大学 准教授	佐賀県
16	林 智子	佐賀整肢学園 かんざき日の隈寮	佐賀県
17	公門 寛稀	Public Gate 合同会社 代表（元 地域おこし協力隊）	佐賀県

※委員から推薦で選出、LS研修受講実績がある方